



「共生・共育について」

伊豆松崎分校と松崎高等学校では、年間を通じて対面式、双獅祭、体育などの授業、球技大会、体育祭、防災訓練、グラウンド整備、マナー講座など、積極的に「交流及び共同学習」を行っています。さらに、松崎高等学校の入学生に伊豆松崎分校の紹介をしたり、職員間でもお互いに研究授業の参観や研修会の参加をしたりしています。

さて、静岡県では、特別支援学校の小・中学生が居住する地域の小・中学校に交流籍（副次的な籍）を置き、居住地校交流を行っています。そして、障害のある生徒も障害のない生徒も、居住する地域の中で共に支え合い育つとともに、教育的ニーズに応じた適切な教育を行う「共生・共育」に取り組んでいます。

松崎高等学校と伊豆松崎分校の生徒は、交流をした後、互いに名前呼び合ったり、あいさつの後に言葉を交わしたり、自然なかかわりが増えています。こんな素敵な関係が続き、誰もがその能力を発揮し、認め合い、支え合い、誇りをもって生きられる社会（賀茂地域）の一員になってくれたらと願っています。

担当 佐々木

「双獅祭について」

松崎高等学校と共同開催の文化祭『双獅祭』。開閉会式には生徒会長の挨拶、開会式では制作にも携わったビッグパネルを観覧、校内発表では松崎高等学校の生徒有志によるパフォーマンスを見学しました。コロナの制限が一部解除となり、3年ぶりに保護者と地域の中学生限定で行われた一般公開では、陶芸班・農園芸班がそれぞれに作業製品を販売、ABOちゃんサポーターによる献血の呼びかけと献血協力、松崎高等学校の各教室のHR展示を見学するなど、文化祭を満喫しました。3年生にとっては、最後の双獅祭で一般公開を初めて体験することができ、高校生活の思い出に残る二日間となりました。

担当 蛭海



『小さな親切』実行章受章

作業学習（木工班）で製作したベンチを松崎高校入口バス停に設置した活動が認められ、「小さな親切」実行章をいただきました。贈呈式で「小さな親切」運動静岡県本部松崎支部長の林さん（静岡銀行松崎支店長）から実行章をいただいた生徒は、ベンチの製作方法や工夫した点、設置した際やバスを待つ人が使っているのを見た時の喜びなどを伝えていました。

担当 佐々木

